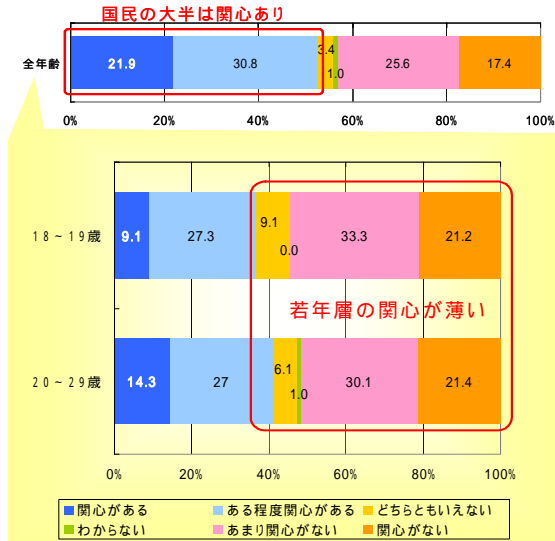


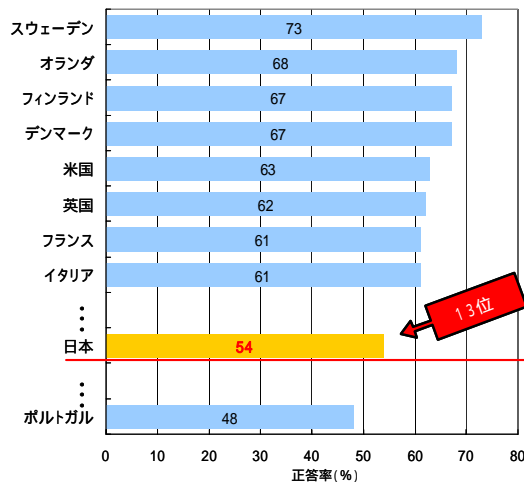
科学技術と社会・国民との関係 - 科学技術に対する国民の関心、期待と不安 (参考資料1 - 1)

- ◆ 科学技術への関心について、国民の約半数が科学技術についてのニュースや話題などに関心を寄せている。一方、若年層における科学技術への関心は低下傾向。また、科学技術に関する基礎的な概念の理解度は、先進国中第13位にとどまっている。
- ◆ 国民は、一般的に、科学技術は生活等の向上に役立っていると思っているが、他方で科学技術を十分理解できていないことから生ずる不安を感じている。また、科学技術政策に、国民自身の参画が一層必要と考えている。

科学技術に対する国民の関心



科学技術に関する基礎的な概念の理解度 (18歳以上の成人への各国共通11問の平均正答率)



<参考>
(各国共通11問からの抜粋)

以下に対して正誤を問う

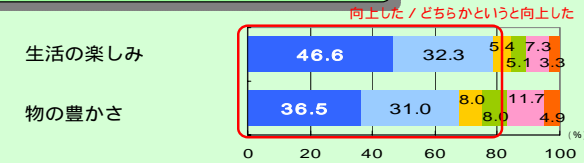
- 地球の中心部は非常に高温である。
- 電子の大きさは原子の大きさよりも小さい。
- 抗生物質はバクテリア同様ウィルスも殺す。
- 放射能に汚染された牛乳は沸騰させれば安全である。等

資料:
- 米国: NSF資料
- 欧州各国: EC資料
- 日本: 科学技術政策研究所資料

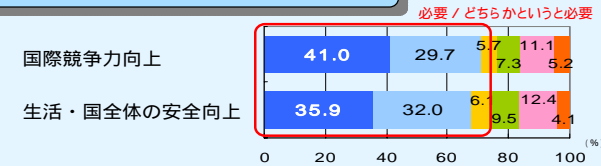
科学技術に対する期待と不安

科学技術と社会に関する世論調査(抜粋) (内閣府・平成16年2月)

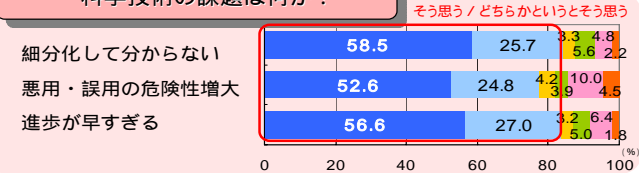
科学技術により向上したことは何か?



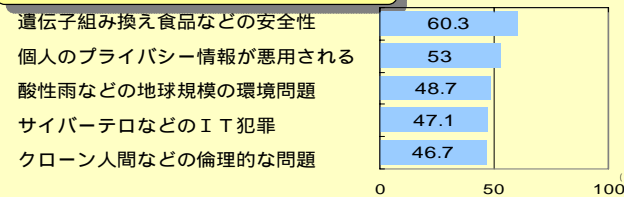
科学技術が必要となることは何か?



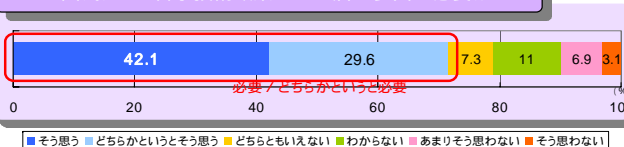
科学技術の課題は何か?



科学技術への不安は何か?



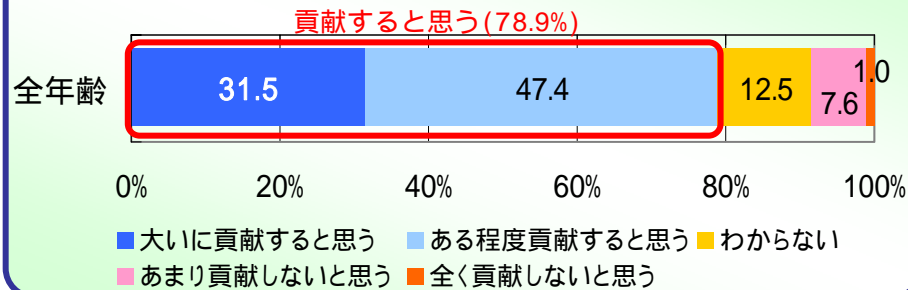
国民による科学技術政策への一層の参画は必要か?



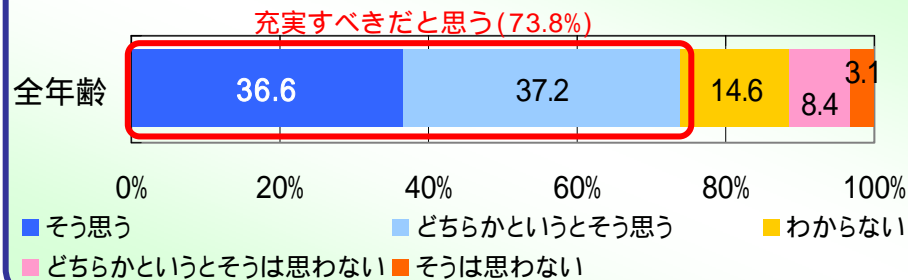
科学技術と社会・国民との関係 - 科学技術に対する国民の期待にどのように応えるか

～最新の内閣府世論調査の結果より(「科学技術に関する特別世論調査」、平成17年5月実施)

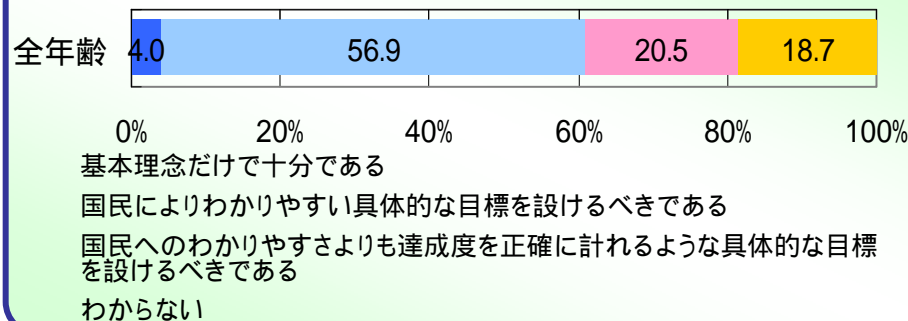
将来の発展に科学技術は貢献するか？



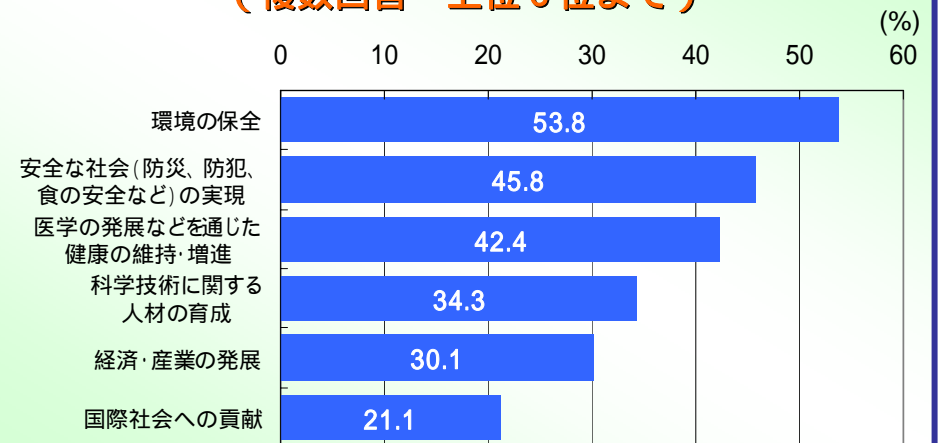
科学技術に対する政府の財政的支援を充実すべきか？



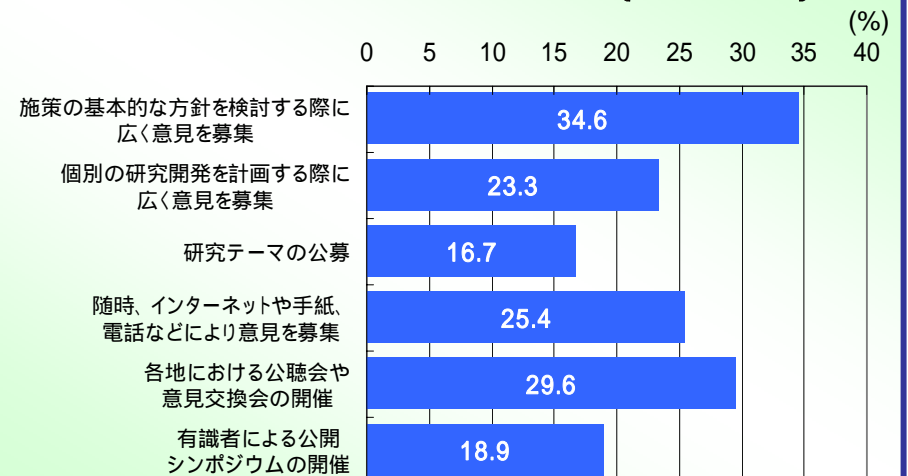
基本計画に具体的な目標設定は必要か？



科学技術への支援にあたり重視すべき点 (複数回答・上位6位まで)



科学技術政策への国民の参画方法 (複数回答)



我が国の政府研究開発投資

第2期科学技術基本計画における記述

- ・第2期基本計画期間中に政府研究開発投資の対GDP比率が1%
- ・上記期間中のGDPの名目成長率が3.5%

上記を前提として5年間の政府研究開発投資総額規模は **約2.4兆円**

政府研究開発投資の実績(平成17年度地方分を除く)

	国	地方公共団体	合計 (政府研究開発投資)	GDP実績
平成13年度	4兆766億円	5,076億円	4兆5,842億円	502.6兆円
平成14年度	3兆8,682億円	4,899億円	4兆3,581億円	497.6兆円
平成15年度	3兆6,015億円	4,475億円	4兆490億円	501.3兆円
平成16年度	3兆6,389億円	4,442億円	4兆831億円	505.1兆円 (実績速報値)
平成17年度	3兆5,785億円	P(未定)	3兆5,785億円	511.5兆円 (見通し)
合計(5年間)	18.76兆円	1.89兆円	20.65兆円+P	2,518.1兆円

$2,518.1 \text{兆円} \times 0.86\% = 21.65 \text{兆円}$

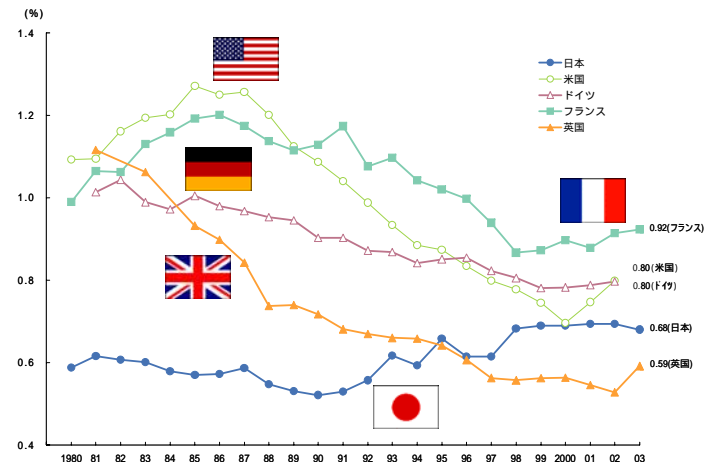
第2期基本計画策定時の想定

GDP合計: 2,783兆円
 政府研究開発投資合計: 2.4兆円

0.86%

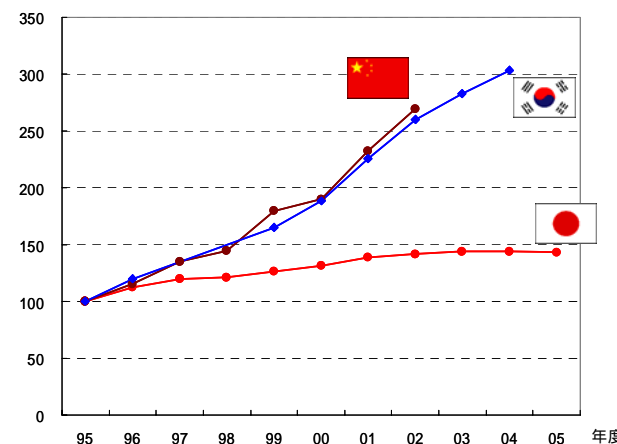
注1: 地方公共団体の金額は国の科学技術関係経費との整合性を考慮し整理した金額。なお、平成16年度地方公共団体の金額は当初。
 注2: 平成17年度は当初予算のみ。
 データ: 文部科学省科学技術・学術政策局「平成17年度政府予算案及び平成16年度補正予算における科学技術関係経費(速報値)」等

(参考1) 主要国における政府負担研究費の対国内総生産(GDP)比の推移



出典: 各国統計データを基に内閣府作成

(参考2) 各国の科学技術予算の伸び率の比較(95年度を基準(100)とした場合の伸び率)



出典: 科学技術要覧(平成16年度版)を基に内閣府作成

我が国の科学技術投資にかかる資源配分の俯瞰図 (平成17年度科学技術関係予算)

- ◆ わが国の科学技術関係予算は、基礎研究、応用研究、実用化・事業化の各段階に配分。
 - ◆ 研究実施の観点からは、大学等のように研究者の自由な発想に基づく研究(ボトムアップ型)から、独立行政法人事業、各府省直轄事業のように、組織の使命に沿った研究(トップダウン型)まで様々な性格のものがある。
- 下図中、各楕円の大きさは、概ね、予算額の規模を示している

